

東日本大震災看護プロジェクト報告

担当理事 吉田俊子

「福島県の子どもさんとお母様との遊びと語りのプロジェクト」

を以下に開催した。

1. 目的：原発をめぐる様々な深刻な問題により、心身に変調をきたしている子ども達と子供たちを心配し、必死で守ろうとする母親に遊びと語りの支援を行い、原発問題の現状と課題を把握し、継続的な支援を考える機会とする。

2. 日時：平成 25 年 7 月 6 日（土）12:00-17:00

3. 参加者：福島県二本松の子供さんとご両親 250 名参加

　　＜二本松同朋幼稚園子ども 80 名＞

　　年少 15 名（1 クラス）、年中 30 名、年長 35 名（2 クラス）

4. 場所：福島県二本松市栄町岳温泉近くの広場

　　講話： 真行寺 二本松市竹田 1-193

5. 支援者

　　学生：82 名、教員と大人 38 名

日本災害看護学会東日本大震災看護プロジェクト：酒井明子、吉田俊子、佐々木久美子

福井大学学生 32 名、福井県立大学学生 13 名、仁愛大学学生 22 名、

宮城大学学生 15 名、弘前大学教員 6 名、福井災害ボランティア支援センター大人 13 名参加

6. 内容

1) 広場での子供たちとの遊びと屋台（やきそば、かき氷、飲み物、綿あめ）

2) お母さま方との語り合い（小屋内にて）

- ・室内遊び（お絵かきや絵本等）
- ・喫茶スペース（お茶菓子準備）
- ・健康チェック（血圧測定等）
- ・アロマセラピーライフ
- ・ストレッチ

3) 真行寺へ移動し、講話を拝聴（真行寺住職：佐々木道範氏）

4) NPO法人 TEAM 二本松 にて購入したホールボディカウンター等の測定装置を見学。（東日本プロジェクトメンバー、教員数名のみ）

真行寺にある放射能計測装置



真行寺内を借りて焼きそばの下ごしらえ



遊び場の様子

サッカー、球技、おいかけっこ



ご両親、兄弟も大勢参加



トレインをつくって遊ぶ



水槽の中におたまじやくし



日よけのテント内は超満員、テントなしも満員



学生と「だるまさんがころんだ」中



飲み物、綿あめ、かき氷、焼きそばコーナー 広場手前 右手小屋、奥にトイレ男女各 1



N P O 法人チーム二本松の放射能測定装置

食品



ホールボディカウンター

